

各 位

新製品・有機 EL 用「水分ゲッターシート」の現況

上場会社名	ダイニック株式会社
コード番号	3551 (東証一部)
代表者の役職氏名	代表取締役社長 細田 敏夫
本店所在地	京都市右京区西京極大門町 26 番地
東京本社	東京都港区芝大門 1 丁目 3 番 4 号
問い合わせ先	責任者役職名 取締役本社財務部長 氏名 天野 高明 TEL 03-5402-3132

当社は、他社に先駆けて、平成 14 年より有機 EL ディスプレイに不可欠な高性能水分除去材「水分ゲッターシート」を開発し、販売しております。その後、各社ディスプレイメーカーの商品化が本格化してまいりまして、当社の製品も採用され量産出荷が始まりました。

当後半期も 4 ヶ月が過ぎ、この間、次世代のディスプレイとして有機 EL 方式が注目を集めていることもあり、その関連商品である当社の「水分ゲッターシート」の展開状況に関するお問い合わせを数多く頂戴しました。つきましては、今第 3 四半期の発表を機に、今期における現況及び見通しについてご説明申し上げます。

尚、連結全体の予想値を修正するには至っておりませんが、お陰さまで、順調に推移しております。

記

1. 市場の動向

有機 EL ディスプレイの方式には「パッシブ型」と「アクティブ型」とがあります。「パッシブ型」は画像再現力でも製造面においてもアクティブ型に比べてシンプルです。「アクティブ型」は製造法が前者に比べ複雑なため数量メリットが求められていますが、動画に適しており、小型だけでなく中型画面も視野に入れて(将来の TV にも)開発が急がれています。

現在、韓国・台湾を中心にパッシブ型が先行し、携帯電話の背面ディスプレイや各種パネル類用として、2003 年後半から量産が始まりました。日本では、動画志向のためパッシブ型を避け「アクティブ型」に傾注し開発が進められ、本格的な量産はこれからです。

国内では、パッシブ型で携帯電話の背面ディスプレイを、アクティブ型でデジカメ用画面等としてスタートしました。しかしながら、画面表示寿命が液晶の 1/10 のため、各社とも当面の最大ターゲットである携帯電話のメイン画面には未だ採用されていない現状にあります。

有機 EL ディスプレイの電極は水分による酸化腐食により著しく劣化します。よって、製品寿命を左右する水分除去材が重要な部品となります。水分除去材には、パウダー型、ペースト型、粘着シート型があり、現在、前者 2 型も一部に採用されていますが、今後の主力は、自動量産ラインに適した後者の「粘着シート型」といわれています。この粘着シート型の水分除去材を供給しているメーカーは数社ありますが、当社が大きく先行していると自負しております。

2. 当社の状況

当社における「水分ゲッターシート」の売上げ予想は、2004 年 3 月期で 4 億円強を見込んでおり、その殆どは当後半期に集中しております。

以 上